

考へてゐる時にふとイエス様の「神は愛なり」と云ふ聖言を思ひ出したさうです。よし神様が愛なれば、此の神様に御願ひすれば屹度死ななくてもよいだらうと思つて教會へ行き、先生から尙も教へを聞いて信者になつた處が、それから段々又もとの様に立派な商買人になつて大層お金が出来、人々に神様の道を傳へる人となりました。イエス様の御言葉が此人を助けたのです。

又私達がイエス様から照らして貰ふたら、その光りを大きなローソクから火を分けて貰つたローソクのように、又太陽の光を反射する月のやうによい行ひをして人々に光りを分けてやらねばなりません。

○整理 今日金言を又暗誦いたしました。これは世の光なり、我に従ふものは暗き中を歩まず、生命 光を得べし、もう一つの聖書の御言葉があ

りましたねエ「聖言は我が足の燈火……」です。ねエ、我々も日曜學校でイエス様のよいお言葉を澤山學びませう。

四、我は生命のパンなり

○本課の目的 イエス様は我は生命のパンなりと御教へになつた事に由り、我等は立派な人間になるためにイエス様の聖言を日常の食物として熱心に學ぶ必要を知らしむ。

○聖書資料 ヨハネ傳六章四八節——五〇節。

○教具 パンと聖書。

○金言 我は天より降りし活けるパンなり（ヨハネ傳六章五十一節）

○教授の準備

一、前學課の復習 前週には「我は世の光なり」と云ふ學課で、人間には闇を照らす光が大切である事を燈

臺の例等で話しましたねエ、それからイエス様の御言葉は丁度燈臺や、星のやうに私達の足許を照らし、路を明るくして、私達を御導き下さる事をも學びました。そして私達もイエス様の御光を分けて貰ひ、よい行ひをして此の世の暗い處を明るくする事が必要である事を學びました。今日の學課は今度はイエス様は生命のパンだと云はれる事に就いて學ぶのであります。

二、接觸點 三年生の讀本に「俵の山」と云ふ處がありますねエ、今年は豊年で今の分では去年よりも七八俵も餘計に收れるだらう！と云ふて書いてありますねエ、お米は田の稻の實ですねエ！

二年の讀方には「麥まき」の處があります、どんな事が書いてありましたか？ 廣いたんぼで親と子が北風にふかれながら麥まきをします。麥まきをして、夕日の赤い空を見上げてよろこんでゐます！と書いてあつたでせう。皆さん麥とお米の稻と如何異ふか知つて居ますか？ 都會の子供には知らない子供が大勢ゐるでせうねエ！しかし、兩方とも人間には大切な無くてはならないものですねエ、今日はイエス様が自分は生命のパンだと云はれたお話ですよ。

○教話 「お米とパンが人間の身體に必要な事」 皆さんが段々大きくなるためには、何が一番大切ですか？ 或る西洋の小女が御飯を食べずにお菓子ばかりを食べてゐるのです。何故ですとお尋ねした處が、私は御飯を食べるとお母さまの様に肥つて丸くなるからいやです！と答へました。

しかしいくらお菓子が好きでもそればかりでは屹度死んで了ひます。矢張り日本人にはお米、西洋人にはパンです。パンは何から出来るのでせうか？ 麥ですねエ、あのメリケン粉は麥の粉なのです。その粉にバタだの、牛の油だの、ハイカラなものは玉子や香物だのを入れ、それにパンをふくらすイーストと云ふパン種を入れて、蒸すのです。お米からご飯をこしらへるよりは少し面倒なので、ご飯でも、パンでも別にさうお美味いものではありませんねエ、お添物のおかずの方がよ程

お美味いのでせう！だからと云ふて、おかずばかり食べてお飯やパンを食べなければ駄目なのです！ご飯やパンを腹一杯食べる方が丈夫な子なのです！ですけれども、妙なもので、お飯やパンは毎日同じものでも少しも飽きませんねエ、毎日同じおかずだつたら飽きて了つて、またか？と云ふて手も附けなくなるのです！お正月の御馳走は如何でした。同じものを三日も食べるといやになりますねエ！矢張り身體のためにはいつも變らないご飯これが一番いゝのです！

〔天から降つたマナ〕 此の話は皆さんはモーセと云ふ偉らいイスラエルの人が、埃及からイスラエルの民達を助け出し、紅海を渡つて、曠野を歩いて行つた時に學びましたねエ！もう忘れませんか？ 皆は埃及から持つて來たものは皆んな食べたり、食べるものが無くなつて大層困りました。

民達は代表をモーセに送つて、私達は埃及に居つた時は肉の鍋でご飯を腹一杯食べてゐたのに、汝はこんな何も無い處へ、私達を連れて來て一體どうするのか、私達は食物がなくて死んで了ひます！と訴へた處が、神様は天からマナと云ふものをお降らしになりました。マナとは如何なものですかねエ！冬外に出来る霜の塊の様なもので、而も甘いものださうです。そして朝それが出來て、夕方には無くなつて了ふものださうです。不思議なものですねエ！イスラエルの人達が朝早く起きて天幕の外に出て見るとそのマナが澤山あつたので、イスラエルの民達は大層悦びそれを定つた數丈け拾つて食べたと云ふ事です。

それは百姓さんが作つたものでなく、神様が天から降らしたものであるのです！イエス様はこのマナを食べたイスラエルの先祖達は何千年も昔の事で

もう皆んな死んで了つたが、我は天から降つたマナでなく、パンだ！此のパンを食べるものはいつまでも死ぬ事が無い、私は生命のパンだと云はれました。

〔天よりの生命のパン〕 イエス様は自分は天より降つた生命のパンと云はれました。

何んと云ふ不思議なパンでせう！一月學課の初めにイエス様が曠野で悪魔から試みられ給ふたお話を聞かれたでせう。悪魔はイエス様が四十日もご飯をお食べにならないでお腹がそれは空いて困られて居ると、「お前はもし神の子と云ふ偉い者なれば此の石をパンに代へてご覧ん！」と云ふた時、イエス様は、「人が本當に生きて行くにはパン丈けでは無い、神様の口から出る凡ての御言葉が大切だ」と云はれました。イエス様は私は天から降つたパンだと云はれたのは、人間の靈を肥へさせ、い

つまでも靈を生かして行く事の出来る、神様の御言葉の事を云はれたのです。茲にパンと聖書があります、パンは身體を肥へさせるに必要なもの！神様の御言葉、これは、イエス様の事が書いてある聖書で靈のご飯又はパンなのです。此のパンを毎日毎日食べて行けば、偉い人にもなり、その人の靈は神様の子としていつまでも生きてゐて、決して死ぬる事等ないのです。

○整理 「天より降つた生命のパン」であられるイエス様を食べるとは一體如何する事ですか？さうです、ねエ！イエス様の聖書を學び、イエス様の事を知る事です、ねエ、それには如何すればよいのですか、日曜學校で先生から聖書のお話を聞いたり、解りやすく書かれた聖書を自分で讀む事です、ねエ（子供聖書を紹介するもよし）又お祈したり、讚美歌を歌つて神様を拜む事も大切ですねエ!!

學課主題 (三)

救主イエス様

一、ゲツセマネのお祈

○本課の目的 イエス様が世界の人々を罪から救ひ出す爲めに、血の雫の様な汗を流してゲツセマネの園でお祈をなされた事を思ひ、生徒の心に感恩の至情を惹起さしむ。

○聖書資料 ルカ傳二十二章三九—四六節。

○教具 ゲツセマネのお祈の石膏細工や、繪。

○金言 正しき人の祈は大なる力あり(雅五・

一六)

○教授の準備

一、前學課の復習 前の月にはイエス様のなきつ

祈をしましたねエ、そして寶刀を海に投げ込むと潮が引いて義貞の軍勢は鎌倉に攻入る事が出来たのですねエ、此等の人達だけでは、何か人並以上の事をしようとすれば神様にお祈して人並以上の力を借りないといけないのです。三年の讀方で元寇の亂の時 龜山上皇は大層心配なされて、岩清水八幡へ御行幸になり、何んと云ふてお祈をなされましたか？ 畏くも龜山上皇は身を以つて國の難儀に代はつても宜敷いですから、我國を御護り下さいとお祈なされたのですねエ、今日はゲツセマネのお祈と云ふ題で、イエス様が世界中の人々の罪を救ふために、血の汗を流して苦まれながら神様にお祈なされたと云ふお話です。

○教話 (國民を思はれる皇室) 龜山上皇は尊い御自分の體が如何な苦しい目に遇ふてもかまはないから、此國をお助け下さいと神様に御祈なさ

たお話と云ふ題で、如何なる學課を学びましたか、「互に相愛せよ」と云ふて善きサマリヤ人のお話や、「我は道なり」「我は世の光なり」「我は生命のパンなり」と云ふて、イエス様は人間に正しき道をお與へ下さつたことや、又イエス様のお教へは暗きを輝やかす光であることや、人間が生きて行くにはイエス様の下さる御言葉のパンを日々食して行かなければならぬ事と云ふ様な大切な教へについて皆さんは学びましたねエ、皆さんの内で前の學課で一番はつきり覚えてゐる事があれば云ふて見て下さい。今日からは救主イエス様のお話です。

二、接觸點

皆さん二年生の讀方で「扇のま」と云ふ處がありましたねエ、與一は扇のまを射らうと弓に矢をつがへこれから愈々弓を射放さうと思つた時、眼を閉ぢて如何しましたか？お祈をしましたねエ「南無八幡大菩薩此矢外させ給ふな！」と神にお祈りして心を静めたのですねエ。

四年生の讀方に稻村ヶ崎で新田義貞は如何しましたか？ 誰か知つて居ますか、寶刀を捧げてお

れたのです。神様は此のお祈を聽かれて、遂ひに神風を或夜亥海に送つて、敵船を沈めて了つたのですねエ？國の難儀に御自らお代りにならうと云ふ思召は誠に有難い極みではありませんか「罪あれば我を罪せよ天つ神民はわが身の生みし子なれば」と云ふ畏くも 明治天皇の御製がありますが、勿體ない事です。明治天皇は罪があれば何卒神様私をお罰下さい、民は皆私の子供でありますからと歌はれたのです。何んと畏れ多い事ではありませんか。

〔人間の罪〕 イエス様は神様の御子様で、少しも罪が無い聖い方でありましたが、多くの人々の神様に逆いて罪を犯してゐるのを御覽になり、一日として人々の罪を悲しまれない時はありませんでした。皆さんがもし何か悪い事をした時には、一番に悲しまれるのはどなたでせうか？ 親

です。ねエ！親は自分の子供が悪るい事をすれば、自分が悪るい事でもしたやうに悲しまれ、例へば皆さんの内の誰れかゞ、お隣の子供を叩いて泣かしたとすれば、お母さんはお隣のお家へお詫びに行かれるでせう。子供が悪るい事をすれば、親は悪るい事をしなくても悲しんで、子供に代つてお詫びしに行かれますねエ、京都に同志社と云ふ大學校がありますがこの同志社をお建てになつた新島襄と云ふ偉い先生は、或時生徒を罰せなければならぬ様な事が出来た時、これは皆な私が悪るいのであると云ふて、御自分の手を鞭が折れるまで叩かれたと云ふ事です。イエス様は悪るい事をした子供の親のやうに、又悪るい生徒を罰せず、自分を罰した先生のやうに、人間達の罪を大層悲しまれました。ユダヤの祭司や學者達を初め多くの人々は、神様の御子であるイエス様を重んぜず、

殺して了はうと思ひ、始終イエス様の後をつけて様子をうかゞつて居るのです。こうして人々は神様に益々逆いて罪を重ねてゐたのです。此等の人はあべこべに神様のお怒りにふれて罰を受けて殺されるのが當り前なのですが、イエス様は自分の子供も同様な人間達が神様に逆く罪を黙つて見通す事は出来ません。そこでイエス様は人間達が神様から受けなければならぬ罪を御自分が代つてお受けになり、人間を救つて正しい道を踏むものとしてやらうとお思ひになられました。

〔ゲツセマネのお祈〕 ゲツセマネと云ふ處はオリブ山にある。大きなオリブの樹が澤山茂つて居る園の名前でありませう。ゲツセマネとは油を搾ると云ふ意味ださうです。これは此處でオリブの油を搾るからその名前が出来たのでせう。イエス様は大層悲しみに満されて、弟子をお伴れになり、

ゲツセマネの園に行かれました。そして弟子達には「誘惑たぶはしに入らぬ様に祈れ」とお命じになり、御自分は、そこから石が投げられる位ひの處に離れて、跪きお祈をなされました。そのお祈は「父よお思召にかなへば、この酒杯を私から取り去つて下さい。けれど決して我儘は申しません。私がそれを飲まなければならぬのなら飲みませう！」と云ふのでした。この酒杯とは何んの事だせう！凡ての人々の受けなければならぬ罪の罰を御自分が代つてお受けになり十字架にお懸りになつて、八裂にされる恐ろしい事なのです。イエス様は神様の御子様で聖い／＼お方なのです。その方が人間の受ける罰の内でも最も慘酷じせんとくしい十字架に懸つて、殺されると云ふ事は平素からお覺悟なされてゐられましたが、愈々その時が迫つて來たので、それで神様から一層お力を受けなければならなかつ

たのです。子供が親に物を云ふやうにして、お父様！如何しても此の苦しい酒杯を飲むのですか、決して我儘は申しませんとお祈なされたのです。

〔血の汗を流し給ふ〕 イエス様は血の汗のやうな汗を流して神様に何度も／＼御祈をなされました處が、天から神様の御使が現はれてイエス様に力をお添へになつたと云ふ事です。イエス様は祈を終へられ弟子達のゐる處に歸つて來られたら、弟子達は居睡りをしてゐたと云ふ事です。何んと勿體ない事だせう。

○整理 人間が何んでも一生懸命にやる時には神様にお祈りしてお力を受けなければなりませんねエ、與一も左様でした。お祈の中でも自分の爲めのお祈りもありますが、龜山上皇や、明治天皇の様に身代りになつてもよいから國を救つて下さいと云ふお祈りや、特にイエス様のやうに世界の人々を救ふ爲めに苦しまれたゲツセマネのお祈は最も尊いお祈りです。

二、十字架の上

○本課の目的 イエス様が萬人を罪より救ひ給ふため十字架に懸り給ふた事を學び、生徒に十字架の意義を思はしむ。

○聖書資料 ルカ傳二十三章

○教具 十字架のイエスの繪、又は十字架を示めす事。

○金言 イエス・キリストの十字架のほかに誇る所あらざれ。(ガラテヤ書六・一四)

○教授の準備

一、前學課の復習 前の學課ではイエス様のゲツセマネのお祈の事を學びましたが、如何してイエス様はゲツセマネに御祈りに行かれたのですか？人間の罪を悲しまれ、人間の代りに罪を受けて人間を罪から救つてやるために、御自分が十字架

に懸つて苦しまれようと云ふ御決心をなさるために、お祈りに行かれたのですねエ、今日は「十字架の上」と云ふ題で學ぶのです。

二、接觸點

皆さんは學校で吉岡先生のお話を聞かれた事せう。吉岡藤子先生は熱心な基督信者で大阪の豊津小學校の先生でありました。關西大風水害の時、學校が倒れ、先生は五人の生徒をかばつて校舎の下敷となり死なれたのですが、五人の生徒は先生のお蔭で助けられたと云ふ美しいお話でした。先生は五人の生徒の身代りになつて死なれたのですねエ！小學四年の讀方に吳鳳と云ふ二百年程前臺灣の阿里山の役人でありましたが、蕃人のお祭に首を供へる悪風を止めさせようと思つていろ／＼苦心のすゑ、つひに自分を殺させました。蕃人達はそれから吳鳳を大層敬ひ、その後人の首を取らぬやうになつたと云ふお話があります。二年の讀方にひよこと云ふ題の文が載つてゐますが、親鶏がひよこを愛する事が書いてあります。以下は讀本では無いが、或冬小屋に入る事の出来なかつた親鶏が、雪に埋まつて死んで居ました、家の人は大層驚いて親鶏を雪から引き出す

と、その羽がひの下から生きたひよこがびよ／＼と云ふて出て來たと云ふ事です。イエス様は「ア、エルサレムよ、汝をわが翅の下に集めんとせし事幾度ぞや」とお嘆きになつた事を思ひ出します。今日はイエス様が人々を救ふために自ら苦しい十字架に御懸りになるお話です。

○教話 「イエス捕へらる」 祭司長の下役達はゲツセマネに來り、もとイエス様のお弟子の一人であつたユダを一緒に連れて行き、ユダにイエス様を教へさせ(接吻をさせて)そしてイエス様を遂ひに捕へました。イエス様は先づ祭司長のカバヤの邸内に伴れて行かれました。そして守る者達はイエス様を嘲弄つたり、打つたりいたしました。その後イエス様は

〔ピラトの裁判〕 ピラトと云ふロマの總督の前に曳きゆかれました。そして民達はピラトの前に此人は謀反を起した人ですと訴へたのです。ピラトはイエス様に「汝はユダヤ人の王であるか」と

問ひました。イエス様は落着いて「汝の言ふが如し」と答へました。ピラトは「此の人は何も罪は無いではないか」と申しました處が、民達は仲々承知いたしません。ピラトは祭司長と司達又民達を集め、「お前達が民を惑はす者として曳き來つた此人は何も罪の無い人である。たゞ懲しめて之れを赦せばよいでは無いか」と云ひますと、民達は「それではいけない、イエスを十字架につけよ」と叫びました。ピラトは民達に「祭りの時には民の願に任せて囚人一人を赦す例があるが、爰に騒動を起し、人を殺したバラバと云ふ者があるが、ユダヤ人の王なるイエスを赦さうか、又バラバを赦さうか」と問ふた處が、民達は直ちにバラバを赦せ！としてイエスを十字架につけよと狂ひ叫びました。ピラトは手の下しやうなく、遂ひにバラバを赦し、イエス様を民達に付し、彼等の望むまゝ

にさせたのです。民達はイエス様を侮り、嘲弄し、華美なる衣を着せて棘の王冠を頭に戴せ、「ユダヤ人の王安かれ」等と云ふて唾をかけたり、打つたりしました。

〔イエスの十字架〕そして人々はイエス様を曳きゆく時、シモンといふクレネ人が田舎から來るのを執へ、十字架を負はせイエス様の後から従いて來させました。イエス様の他に二人の罪人をも十字架につける爲めにイエス様と共に曳きゆきました。その名も恐ろしい髑髏と云ふ處に行きイエス様を愈々十字架につけ、又惡人の一人をその右、一人をその左に十字架につけました。イエス様は十字架の上に、兩手、兩足を釘で打付けられ血だらけになつてお懸りになりました。それでもイエス様は、十字架の上で「父よ彼等を赦してやつて下さい、彼等は何も知らない憐れな人達でありま

す」と云ふてお祈をなされました。人々はイエス様の衣服を鬪引をして分けて取りました。民達は此の酷たらしい有様を立つて見てゐました。司たちはイエス様を嘲つて「イエスは他人をよく救つたけれど自分を救ふ事は出來ないではないか？もし神様の子ならいまに天使が降りて來てイエス様を救ふであらう」と申しました。兵卒達は近よつて酸き葡萄酒を長い棒の先きの綿に滲ませさし出してイエス様にすはせて言ふには「汝ユダヤの王ならば、自分の力で自分を救へ」と嘲りました。それは十字架の上にユダヤ人の王なりと罪標が付いてゐたからです。十字架に懸けられた惡人の一人は、イエス様を譏つて言ふには「汝はキリストならずや、もしそうなら、己れと我等を救つて下さい」と云ふたので、他の者達は「何を云ふお前も同じ罪人の癖に神を畏れないのか」と怒り出しま

したが、罪人は「イエス様天國に入り給ふ時には、此の私をも憶えてゐて下さい」と訴へたのでイエス様は「お前は今日我と偕に天國へ往けるぞ」と申されました。丁度晝の十二時頃天は眞暗になつて了ひそれが三時間も續き、エルサレムの宮の幕は、眞中から二つに裂けました。何んと云ふ不思議なことせう！イエス様は大聲で呼はりて「父よ、わが靈を御手におゆだね申します」と云はれ息が絶えて了はれました。百卒長はこの嚴肅なる光景を見て、「實にこの人は義人である」と云ふて神様を崇めました。多くの人々も此の嚴かな有様を見て皆な胸を打ちつゝ歸つて行きました。凡てイエス様を譏つてゐたものや、ガリラヤから従つて來た女たちも遙に立つて此等のことを見てイエス様を神の子として崇めました。

○整理 皆さんはいまイエス様が十字架に御懸

りになつた有様を聞かれました。イエス様は十字架の上で何と云はれたか覚えてゐますか？父よ彼等を赦してやつて下さい！とお祈りなさいましたねエ、イエス様は十字架の上でユダヤ人の罪、世界の人々の罪を、代つて身に引き受け、私達の身代りになつて下さつたのです。神様の御子様が私達の罪を代つて負ひ下さつたとは何んと云ふ有り難い事せう！前にお話した吉岡先生のお話や吳鳳さんのお話や、親鶏のお話も皆なイエス様の身代りの精神を現はした美しい行爲わざでありました。皆な十字架の精神であります。人の難儀に代る事を十字架だと云ふやうになつてゐますが、かゝる十字架は誇るべきです。金言を憶えませう。

三、甦りのイエス様

○本課の目的 イエス様が御甦りへりされた事により、イエス様は神様と共に永久に生きてお出でなさる生命の君である事を生徒に知らしむ。

○聖書資料 ルカ傳二四章一——一二節。

○教具 甦り給ひし繪、又、卵子、蠶等。

○金言 死人の中より甦り給へるイエス・キリストを憶えよ(テモテ後書二章八節)

○教授の準備

一、前學課の復習 前週にはイエス様は萬民の罪を身に負ふて十字架の上に息絶え給ひし事を学びました。イエス様は父よ彼等を赦してやつて下さいと十字架の上でお祈りなさいましたねエ、さてそれからイエス様は如何なさいましたかねエ、それが今日の學課です。

二、接觸點 イエス様のお甦りのお話をする前に卵子とひよこ、蠶とおかいこのお話をしませ

う。皆さんは今卵子を見てみますね、こんな丸い全く生物とは思はれない様なものから、これを暖かくしてやつて、定まつた時が来ると中からひよこがびよ／＼と生れて来るとは不思議ですねエ、卵子とひよこは全く變つたものでもの！蠶も同じことです。これが美しい蝶々になるとは如何して思へませうか、生物でない様に思へるものから生物が生れるのですものねエ！又皆さんは三年の讀方の時に熊襲征伐と云ふ處で日本武尊のお話を讀まれたでせう。日本武尊は熊襲征伐からお歸りになつてから後ちに今度は膽吹山に御上りになつて荒ぶる賊をお平げになつた時、山上で毒蛇の口から吹出した毒氣に中つて御隠れになつたと云ふ御事でした。御年僅かに三十二歳であられたのです。そこで民達に代つて賊を平げ、多くの苦しみに遇はれて遂にお隠れになつたので、民達

は大層悲しみ、尊を伊勢の能褒野の御陵に葬つたのであります。ところが、日本武尊は忽ち白い鳥になつて御陵から飛び出してしまはれ、大和國を指して行かれたと云ふ事があります。そこで家來の人々が御陵を開いて見た所が皇子の尸は無くなつて了つて唯皇子の御衣があつたと云ふ事です。今日はイエス様の甦りのお話ですが、よく似たお話であります。

○教話 「墓に葬られ給ふ」 アリマタヤのヨセフと云ふ平素からイエス様の事を大層敬ふてゐた人が居りました。ヨセフは議員と云ふて立派な役目の人で、眞面目な人であり、イエス様を十字架につける相談には加はらなかつた人であります。このヨセフはピラトの許にゆき、イエス様の屍體を貰ひ受ける事を許され、イエス様を十字架から取り下し、亞麻布でお體を包み、巖に掘つたまだ

人を葬つた事のない墓に、イエス様を納めました。この日は日曜日の前の日でありました。ガリラヤからイエス様の後を慕つてついて來ました女達はそのお墓と屍體の納められた有様を見て安心いたしました。イエス様を殺した祭司長やパリサイの人々はピラトの許に集つて云ふには、「ピラト様、世を感したイエス様の生きて居た時、われ三日の後に甦らん」と云ふてゐましたから、三日がすむまでその墓を番させて下さい。さうでないといエス様の弟子達が來て、イエス様の屍體を盗み出し、「それイエス様は死人の中より甦りへり」と云ひでもすると後が一層面倒であります。」とピラトに申しましたので、ピラトは「それならお前達が番兵を置いてその墓に行き力の限りに固めなさい」と申されたので、祭司やパリサイの人々はお墓の石に封印して、番兵を置いて墓を固めました。

「イエス様の甦り」 處で丁度イエス様が息絶えなされてから三日目の朝でした。マクダラのマリヤと他のマリヤ達は、香料と香油を携へて、イエス様のお墓の處へやつて來ますとその時に大地震がぐらぐらとゆり出し、天使が天より降つて來て、お墓の大石を轉ばし、その石の上に坐りました。その有様は電光のやうに輝き、その衣は雪のやうに白くありました。お墓の番をしてゐた番兵は、死人の様になつて了つたのです。女達は何事が起つたのであらうと一時は驚きましたが、石が既でに地震のため轉し除けてあるのを見、お墓の中に入つて行きました處が、イエス様の屍體が見附りませんので大層驚きました。不思議だ、今朝私より早く來たものは無いし、番兵が居るのに如何してイエス様の屍體が無いのだらうか？

女達は狼狽へて居た處が、墓の處に輝やく衣を

著た二人の人がその傍らに立つて居るのを見附けたので、女達は懼れて打ち伏し、顔を地の面に伏せて了ひました。その二人の人は天使なのでありました。二人の天使は「お前達は何故死にしろの中に生けるものを尋ねるか、イエス様は此處にをられません。もうお甦へりなされました。ガリラヤに居給へるときイエス様がお前達に何んと語つてゐられたか、その言葉を憶ひ出してご覧なさい。イエス様は必ず罪ある人々の手に付され十字架につけられ、かつ三日目に甦へるべしと云ふて居られたではないか」と云はれました。そこで女達は成る程イエス様は三日目に甦へられると云ふ事を云はれてゐた事を憶ひ出し、さてはとばかり女達はイエス様のお墓から歸つて、凡てのありし事を十一弟子及びその他の弟子達に告げました。イエス様の一番の愛弟子のペテロは起ちて早

速お墓へ走りゆき、その中に入つて行つた處が、たゞイエス様の屍體をまいた布のある事を見て、矢張りイエス様のお體はありませんでした。イエス様のお墓に居た番兵達はやつと我れに歸ると墓の石は轉がつてゐるし、中に入つて見るとイエス様の屍體が無くなつてゐるので、これは大變だと云ふて、都へ急ぎ歸つて行きました。そして祭司長や長老達に有りの儘を話した處が、祭司長や長老達は相談をして云ふのには、イエス様が本當に甦つたとは大變な事だ。もしこの事が人々に傳はつたら、人々は神様の御子を何故殺したかと云ふて、大變な事になる。そこで兵卒達に多くの銀を與へました。そして兵卒達に「イエスの弟子達が夜中に來てイエス様を自分達が眠つてゐる間に盗んで行つたと云ひなさい」と申しました。

そして祭司長は此の話がたとへピラトに聞えて

もお前達が罪に陥ちぬ様に云ふてやると申しました。兵卒達はお銀を貰つたので、そのやうにユダヤ人の間に云ひふらしましたので、多くの人はイエス様の弟子達が夜中に來て、屍體を盗んだのだと云ふ事を信する様になつたのです。

○整理 今イエス様がお甦りになつたお話を聞きましたねエ、ペテロが行つて見たら、お體を巻いた布が残つてゐなかつたと云ふ事です。

日本武尊のお話とよく似てゐます。日本武尊も御陵にはお衣物丈けが残つてゐたと申します。

祭司長達は、いくら番兵を置いて番をさせても、いくら墓石に封印をしても、生命の力はさまたげる事が出来なかつたのです。卵の殻を破つてひなが生れるやうに、いまイエス様は、石の墓を破つて甦り給ふたのでした。金言を憶ひ出して下さい。

四、エマオへの途へ

○本課の目的 御甦りなされたイエス様は、弟子達に現はれ、一緒に途を歩み給ふた事を知り、イエス様は今までも私達と一緒に居て下さる事を知らしめる。

○聖書資料 ルカ傳二十四章一三——三二節。

○教具 エマオ途上の繪。

○金言 イエス自ら近づきて共に往き給ふ（ルカ傳二十四章十五節）

○教授の準備

一、前學課の復習 前週の日曜日にはイエス様がお甦りになられ、お墓に居られなかつたと云ふ御話を聞きましたねエ、兵卒達から此の話を聞いた祭司長や長老達は如何したでせう、兵卒にお銀をやつて、イエス様の弟子達が夜中にその屍體を盗んで行つたと云はせたのですねエ、けれど論より證據でイエス様は弟子達に御自

分からお現はれになりました。今日はそのお話です。

二、接觸點

皆さんは巡禮と云ふ者を見た事があるでせう。巡禮とは白い衣物を着て、手足に白の脚絆をつけ、大きな笠をかぶつて、長い杖と鈴を持ち、その鈴をリン／＼と鳴らしてお札所と云ふて、有名なお寺を巡つて歩くのです。白い衣物には字が書いてあつたり、お寺の印が澤山擦してある時があります。お金や食べるお米が無くなる、人の家の前に立つて鈴を鳴らしながら何かお經を稱へ、お金やお米を貰ひ、こうしてお寺を次ぎから次へと巡つて行くのです。日本の國には昔からこの巡禮と云ふものがあります。

巡禮の中にも種々あつて、そんな事を商賣のやうにしてゐる乞食も同様なものもあれば、又さうでなくつて少しも困らない人でも、自分の信神心を深かめる爲めに、巡禮になつてお寺を巡つて居

る人もあるのです。さう云ふ巡禮はよく見ればすぐ判るのです。何故こんな巡禮のお話をしたかと云へば、その巡禮の被つて居る笠に不思議な文字が書いてあるのです。皆さん達は氣が付かなかつたかも知れませんが、その文字は「同行二人」と云ふ文字なのです。一人の巡禮が「同行二人」と云ふ字の書いてある笠を被つて居るのです。

誰かもう一人居るのでせうか、巡禮は矢張り一人で街の中や、田舎道を歩いて居ます。又山の奥路を歩いて行きます。晝も夜も一人で歩いて行きます。けれどその笠には「同行二人」と書いてあります。巡禮は決して一人で歩いて居ないのであります。巡禮は決して一人で歩いて居ないのであります。それ他の一人と云ふのは、如來様と云ふて、私達で云へば神様の事なのです。巡禮は目に見えない如來様と常に一緒に歩いてゐるので、少しも

淋しい事や恐ろしい事は無いのです。今度巡禮が來た時に、その笠を見て御覽なさい！

今日のエマオへの途でと云ふお話は此の巡禮のお話と似て居る處があります。

○教話 「エマオ途上の弟子達」 丁度イエス様がお甦りなされた日です。此の二人は女達からイエス様はお甦りなされたと云ふお話を聞いた人達なのでした。エルサレムの都から三里ばかり隔つたエマオ村に二人で歩いて行く途中の事でした。二人は頻りにイエス様が今朝お甦りになつたお話を女達から聞いた通りに話ながら歩いて行くのでした。「ペテロも女達から聞いたので、直ぐお墓に行つたのだつて？そしたら矢張り布丈けしきや無くて、イエス様は居られなかつたさうだ」「君は今朝の地震を知つて居るかい、可成り大きかつたぜ、その時だ墓石が轉んでイエス様がお甦りにな

つたのは」「さうか女達はそれでは天使達に會つたのだねエ、そして天使からその事を聞いたのだねエ」「さうらしい」と段々熱心になつて語り合ひながら歩いて行く内に、イエス様が途中から一緒に此弟子達に近づき給ふて、その二人の弟子達のお話を又熱心に聞かれながら歩かれました。二人の弟子達は目が遮へられて、イエス様御自身だと云ふ事が判らなかつたのです。イエス様は「お前達が互に語り合ふてゐる話は一體何事かな」とお尋ねになりました。すると二人の弟子達は悲しげな様子をして立ち止り、その一人のクレオバと云ふお弟子が「お前さんはエルサレムに宿つて居りながら、此頃起つた大きな事柄を知らないのか」と反對に尋ねましたので、イエス様は「一體何事か」と又問ひ返したので、クレオバは「それはナザレのイエス様の事だよ！此のお方は神様の御子

様で、その教へを聞いても、なさる事を見ても本當に力ある預言者様なのに、悪い祭司長や我が司達はイエス様を捕へて遂ひに死刑となし、十字架につけて了つたのです。私達はイスラエルを救ふものはこの方の外には誰れも居ないと思つてゐたのに、遂ひに十字架に付けられて了つたのです。イエス様が十字架にお付きになつてから今日が丁度三日目なのです。處が私達の仲間の女達が我々を今朝驚かしたのです。それは女達が朝早く起きてお墓に往つたのに、イエス様の屍體を見ず、御使たちが現はれて、イエス様は活き給ふと告げた事です。私達のお友達の數人もまた墓に往つて見れば矢張り女達の言ふた様に正しくイエス様はお墓に御いでにならなかつたさうです。

〔エマオのイエス様〕 するとイエス様は「そんなにお前達は驚く必要は無いではないか、ちやん

と預言者達も昔から云ふてゐたではないか、キリストは必ず此等の苦難を受けて、甦りなされると云ふて居たではないか、モーセもその他の預言者達も皆聖書にちやんと認めてゐるではないか」と云ひました。クレオバは此の知らない人の言葉には驚きました。こんな事をお話しながら歩いてゐる内に早やエマオ村に來て了つたのでした。イエス様はそこからまた先きの方へ進み行かれる様でしたので、クレオバは「旅のお人今日はもう夕方でも暮れようとしてゐますから、私達と一緒に共に留りませんか、あなたも矢張りイエス様の弟子の様な方だ、まあ今夜は一緒にお話をいたしませう」と云ひますので、イエス様はそれでは一緒に留りませうと云ふて共に食事の席にお着きなされました。そしてイエス様はパンを取り上げ、神様にお祈をなされ、擘きて與へ給へば、クレオバと

もう一人のお弟子の目が開けてその方が本當のイエス様である事が判りました。そしてイエス様はそれきり見えなくなつて了つたのです。クレオバと他のお弟子は如何に驚いた事でせう！二人は「あの方が道で聖書のお話をされた時に、私達の心が内の方で燃える様であつた」と語り合ひ、二人はその夜にエルサレムへ歸つて行つて此事を他の弟子達に告げました。

○整理 初めに巡禮のお話で同行二人のお話をいたしました。今はエマオの途での知らざる人がイエス様であつたお話でしたねエ、イエス様は汝等二三人集る處には我も汝等と共にあるなりと云はれましたが、イエス様は今でも此の教會の中に私達には目が曇つてゐて見えないのですが、屹度御出になるのです。皆様方と一緒に途を歩いて御護り下され、皆様のお祈を聴いて下さるのです。見えざるイエス様を深く考へませう。今日の金言を憶ひ出して下さい。

五、世界の救主イエス様

○本課の目的 イエス様は單にユダヤの救主であるのみならず、世界の人類・世界の國々の救主であり、神の國の王様である事を學ばしむ。

○聖書資料 ルカ傳二四章四四—五三節。

○教具 ペンテコステの繪、世界地圖等。

○金言 全世界を巡りて凡ての造られしもの(人々に)福音を宣傳へよ(マルコ傳十六章十五節)

○教授の準備

一、前學課の復習 前週には「エマオへの途で」と云ふお話で、イエス様は二人のお弟子に現れ給ふたお話をしましたねエ、その時イエス様は今でも人間の目には見えないが、イエス様は私達のそばにゐて私達をお護り下さる事をお話しましたねエ?! 今日はいエス様が甦りなされて漸くの間は、大勢の御弟子達にお現れになり、

最後に大切な御命令とお約束をなされたと云ふお話をいたします。

二、接觸點

小學校四年の讀方の時「世界」と云ふ讀方の題があつたでせう、三年の時には「大日本」と云ふ題の讀み方の時、世界の事を先生から學びましたねエ! 私たちの住む世界を地球といふのはなぜですか? 世界は丸くて球のやうですからですねエ! 世界には大きな海がありますが、如何な名前の海ですか? 太平洋・大西洋・印度洋! 陸は六大洲と云ひますが、其の名前は何かですか? アジヤ洲・ヨーロッパ・南アメリカ洲・北アメリカ洲・アフリカ洲・大洋洲ですねエ、

日本は何洲にあるのでせう? アジヤ洲の東部ですねエ、イエス様は何處の國にお生れなされたのですか? ユダヤの國です! ユダヤの國は何洲ですか? 日本と同じ亞細亞洲の西の端です! 日本は東の端で、ユダヤは西の端ですねエ、イエス様は十字架に付けられ、墓に葬られ給ひましたが、三日目にお甦へりになり、お弟子達に現れなされて、イエス様の御教へを世界の國々の人々に宣傳へよ、と云ふ御命令と、天の神様が汝等にお約束な

された贈物を天より御降しになるまで都に留つて居れと云ふ二つの御命令をなされたのです。これからそのお話をいたませう。

○教話 「イエス・マクダラのマリヤに現はれ給ふ」 イエス様が十字架の上で最後を遂げられてから三日目の朝、前の學課で「イエス様の甦り」と云ふ題の時に、一番初めに女達がイエス様のお墓に行かれたと云ふお話をしたでせう! その女達の内にマクダラのマリヤと云ふイエス様から大層可愛がられた女が居つたのですが、マリヤは誰れか? イエス様の屍體を取去つて隠したと思ひ、墓の外に立つて泣いてゐました。そしてマリヤが墓の内を見るとイエス様の屍體の置かれてあつた處に白い衣をきた二人の天の使が坐つてゐたのです。そしてマリヤに「女よ何故泣くか」と云ひました。

マリヤは「誰が、わが主を取去りましたか、一體何處に置いたのでせう」と問ひ、後を振り返りました處が、イエス様が立つて居られました。けれどマリヤは園の番人だと思つて、「誰れか取り去つたのなら、何處に置いたか知らして下さい、私が引取ります」と云ひますと、イエス様は「マリヤよ」と云はれました。マリヤは此時初めてイエス様だと云ふ事が判つて「先生」と云ひました。マリヤは懐しいものですからイエス様に觸らうとしますとイエス様は「われに觸るな! 我はまだ父の許に昇らないからだ」と云はれ、弟子達にイエス様はこれから父の許に昇つて行かれようとしてゐる事をお告げなさいと云はれました。マリヤは弟子達の許に行き、「われは主を見たり」と告げました。

「多くの弟子達にもイエス現はれ給ふ」 前週の

學課の時二人の弟子が、エマオへ行く途中でイエス様に會つたお話をしましたねエ、此二人の弟子はエマオから直ちにエルサレムに引返して来て、そこに集まつてゐた弟子達十一人のものと、之れと一緒に居つたものに此の事を告げようといはれました處が、そこに集まつてゐたお弟子達や他の者達は大騒ぎでありました。一體何事が起つたのですか？ と二人の者が問ひますと、「主は本當にお甦りになつて、シモン・ペテロに現はれ給ひました」と云ふてゐるのです。すると二人の者は私達もいまエマオで主にお會ひいたしました。主はパンをお擘きになりましたと申しました。

そして尙も此等のお話をしていると、イエス様がその中にお立ちになつて、「平安汝等にあれ！」と云はれました。一同のものは大層恐れてそれは靈では無いかと思つて居ますと、イエス様は「お

前達は何んだつてそんなに心を騒がして恐れてゐるのか？我が手、我足を見よ、これ我なり、我を撫て見よ、靈には肉も骨も無いけれど、我にはある。それごらん」と云はれて手と足をお示しになりました。それでも弟子等は本當であらうかと怪しんで居ましたので、イエス様は「何か食物があるか」と云はれましたので、弟子達は炙つた魚を一片捧げました。するとイエス様は弟子達の前で之れを御食しになりました。

〔世界に宣傳へよ〕 イエス様は其後聖書をお開きになられて、弟子達に教へを授け、弟子達の心を開かせる様になさいました。聖書にはキリストは十字架の苦難を受けて、三日目に死人の中より甦り、その上、キリストの名前に由つて多くの人々に悔改めさせて、罪を赦す有り難いお仕事をなされるのである。そのお仕事は先づユダヤのエル

サレムから始められ、世界の國々人々にまでも廣がつて行くのである。お前達はその證人では無いか、甦りの私を今見たではないか。

見て居てごらん！我は神様がお前達にお約束なされたものを必らずお前達に贈つてやるぞ！そのお約束の贈物を授かるとお前達は非常な能力のある者となるのである。それが天から降るまで、エルサレムに留つてお祈りをしてゐるがよいと云はれイエス様は弟子達を連れてベタニヤに行かれ、弟子達を手を舉げて祝福なさいました。

そしてイエス様は見る／＼内に天に擧げられて行かれました。弟子達はエルサレムに歸り神様からの贈物の來る時まで共に宮でお祈りをして居ました。

〔ペンテコステ〕 イエス様が神様から約束のものを賜はるまで、エルサレムを離れずに居れと云

はれたものですから、弟子達はエルサレムに集つて居ましたが、丁度イエス様が逝かれてから五十日目でした。弟子達が一處に集つて居つた處が、烈しき風の様な響が天から俄に起つて、その家に満ち、火の様なもの、舌のやうに現はれて、人の上に止まりました。此れはイエス様の聖靈で、神様の御約束のものであります。皆は大變な能力を興へられ、ペンテコステのお祭りで世界中から集つて來てゐる人々に、弟子達は世界中の言葉でイエス様の事を話し、五千人もの人々を悔改めさせる事が出来ました。

○整理 イエス様の教へは、こうして、世界中に段々廣がつて行きました。イエス様の聖靈が弟子達を助けて今日では世界中にイエス様の教への傳はつてゐない國は一つも無いやうになりました。イエス様は世界の救主であります。

昭和十一年三月二十日印刷
昭和十一年三月廿五日發行

〔定價六拾錢〕
郵稅六錢

編纂者

日本組合基督教會教育部

代表者 今泉眞幸

發行者

大阪市西區韮上通一丁目三十一番地

矢部外次郎

印刷者

大阪市西區阿波座中通二丁目四番地

井下精一郎

不許複製

發行所

大阪市西區韮上通一丁目三十一番地

會社名 福

音社

電話土佐堀一六六九番
振替大阪一九二一番

組合基督教會標準日曜學校學課教案

●幼稚科	第一年	父なる神と子供の世界	岩村清四郎
	第二年	同	同
●小學科第一級	第一年 (小學一、二年)	愛の神とその良き子供	竹内 惠
	第二年	同	大野富之助
●小學科第二級	第一年 (小學三、四年)	神の御旨を行つた人々	錦織貞夫
	第二年	同	同
●小學科第三級	第一年 (小學五、六年)	神の選民イスラエル	海老澤 亮
	第二年	勝利者 イエス	本宮彌兵衛
●中學科第一級	第一年 (中學一、二年)	少年時代の諸問題	田泉保興
	第二年	神に生くる人々	湯淺與三
●中學科第二級	第一年 (中學三、四年)	キリストなるイエス	今泉眞幸
	第二年	基督者の生活	茂義太郎
●青年科	第一年	聖書研究之基礎	田中左右吉

終

